

令和 2 年 7 月 13 日現在

機関番号：31302

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K06688

研究課題名(和文) 明治期における府県庁営繕技術者の国内外移動と職能形成過程に関する研究

研究課題名(英文) Historical study on the prefectural official architects: in case of Meiji era

研究代表者

崎山 俊雄 (Sakiyama, Toshio)

東北学院大学・工学部・准教授

研究者番号：50381330

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：明治期の各府県に在籍した技術官(周辺人物を含む)の把握：5000名程の技術者に関する独自のデータベースを作成した。建築技術者の特定と経歴の把握：200名超の地方営繕技術者に関する独自の履歴データベースを作成した。明治期の地方都市に建った建築物について、図面・古写真を収集した。関連遺構の現地調査を実施した。以上を踏まえて、明治期における全国的動向を比較考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究における最も重要な成果は、これまでに存在を知られていなかった都道府県庁の建設系技術者を歴史資料の中から網羅的に拾い出し、リスト化した点にある。その成果は、土木・建築分野における地方近代の様相(技術の伝播や都市形成の過程)を人的観点から理解する新視点を開くものであり、同時に各地に残る近代建築や近代土木遺産を造り手の観点から評価する上で有用な情報を提供することにつながると思う。

研究成果の概要(英文)：1) I researched the technical officials who belongs to prefectural office in the Meiji era, and made a original list of about 5,000 engineers. 2) I especially researched the official architect. Where he was born?, where he had studied?, who had guided him?, where he had worked?, and what he had built?, And I made a original list of about 200 architects. 3) I collected drawings and old photographs of their buildings. 4) I surveyed their buildings. 5) I clarified the trends of all engineers in the Meiji era.

研究分野：建築史

キーワード：建築技術者 土木技術者 キャリア形成 人材移動 工学教育 技術伝播 明治時代 都道府県庁

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

## 様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

### 1. 研究開始当初の背景

明治から昭和戦後に至る近代国家の建設過程において、都道府県の営繕技術者が果たした役割は極めて大きかったと言ってよい。しかしながら、これら技術者に関しては、三大都市圏の一部と北海道を除き十分な研究蓄積が無い。

申請者はこれまで、わが国近代における建築や都市の発展が、東京ないし大都市圏を中心として確立された近代建築の周縁への伝播という構図で語られてきたことに対する批判的視点から、近代の地方における建築や都市の展開過程を実証的に再検討するため、地方官舎建築、地方営繕組織等に着眼して研究を行ってきた。本研究は、これら一連の試みの延長線上に位置づけられるものであり、更に技術者の国内(外)移動と職能形成という新視点を導入して研究を発展させようとするものである。

### 2. 研究の目的

以上の背景に照らして、本研究の最大の目的は、明治期の地方営繕技術者の集团的動向に関する基礎事実の把握である。その具体的な課題を以下に示す。史料としては、各府県の歴史的公文書（国立公文書館、国立国会図書館、各府県立公文書館、各府県立図書館等に所蔵される）を中心に、適宜、郷土史関係文献や古写真・古絵葉書、建築学会員名簿等を用いながら補完する。

課題1) 明治期の各府県に在籍した建築技術者および周辺人物(府県上級官員等)の把握

課題2) 上記により抽出した建築技術者の経歴の把握

課題3) 各技術者が関与した営繕事業の内容（設計内容を含む）の把握

次いで本研究の第二の目的は、以上に基づく新たな知見の上に乗って、人材移動の観点から見た地方営繕技術者の職能形成過程、またそれらが近代における地方の建築や都市に及ぼした影響について解明することにある。すなわち上記した課題1)、課題2)、課題3)に対する調査で得られた成果を相互に関連付けながら、如何なる枠組みの下で府県庁の営繕技術者については近代の地方における建築や都市が成されたのかを明らかにすることが、本研究の最終的な目標である。なお、本研究は、近代の地方における建築や都市の成立過程を多面的かつ通時的に捉えようとする申請者の一連の研究構想の基底を成すものである。特に本申請研究では、技術者成立への揺籃期と見られる明治期を検討の対象とする。

### 3. 研究の方法

人材移動の観点から府県庁の営繕技術者ないし近代における地方の建築や都市の歴史を再検討していく上で、本研究では以下の手法と手順により研究を実施した。

Step 1) 職員録を主史料として、明治期の各府県に在職した建築技術者と周辺人物を抽出する。

Step 2) 履歴簿を主史料として、技術者の経歴(移動歴)を調べ、人材移動の実態を把握する。

Step 3) 行政文書を主史料として、各技術者が関与した建築物と関与の度合いを明らかにする。

Step 4) 人材移動が技術者の職能形成については地方近代の建築や都市に与えた影響を考察する。

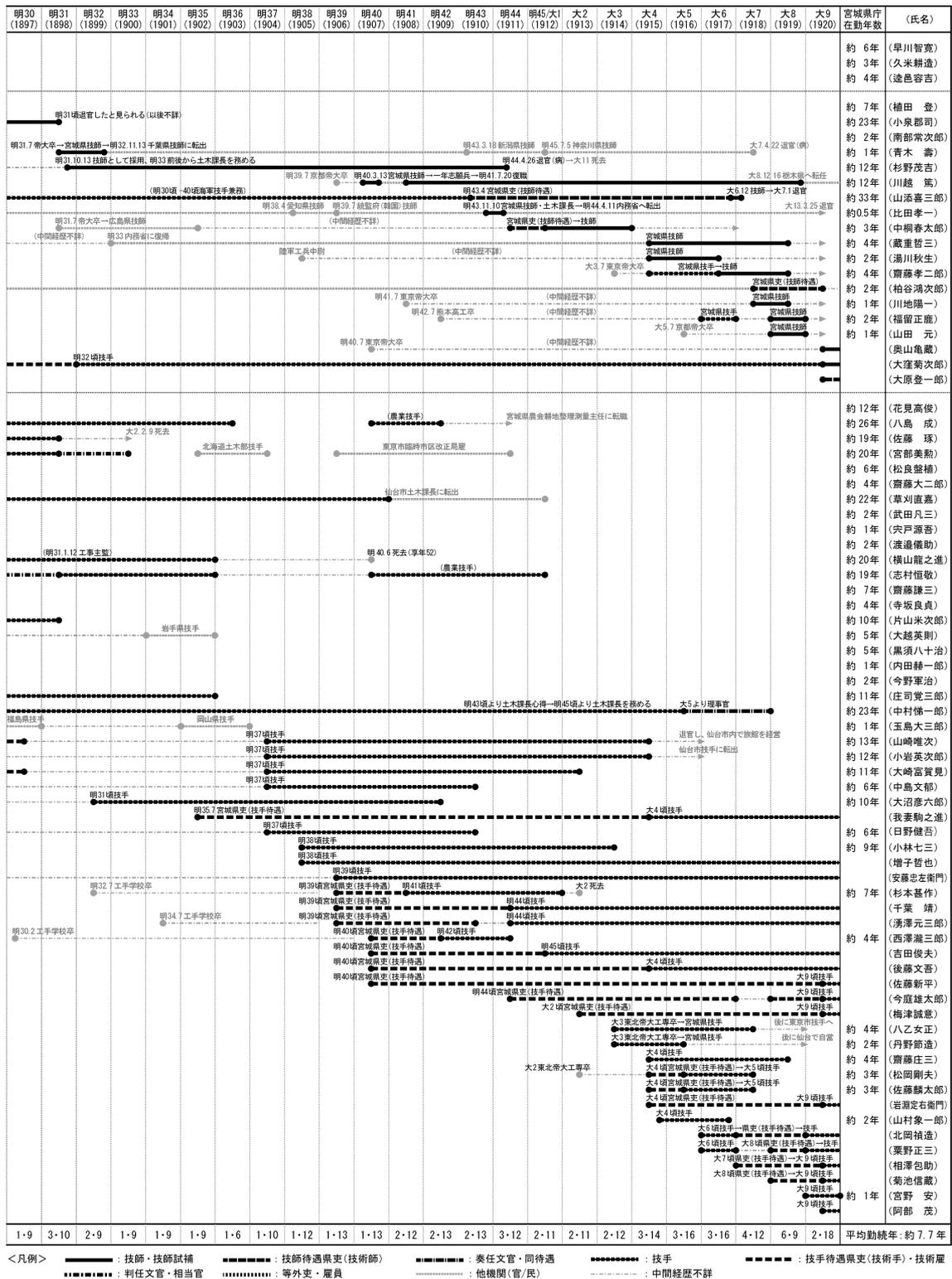
### 4. 研究成果

以下では、宮城県を事例として、成果の概要を説明する。次ページの表1には、明治初期～大正9年に技術官（技師・技手）として宮城県に奉職した人物のうち、建設系技術者であることが確認できた人物について網羅的に整理した。

宮城県庁における、実質的な建設系技術者集団の成立は、初代土木課長・早川智寛の着任を嚆矢とする。早川の下、内務省から複数名が転入してくるとともに、地元からも数学に長けた人物が測量技術者として登用された。建築分野では久米耕造（工部省）、土木分野では遠邑容吉（工部大学校）が採用され、例えば久米は仙台警察署や県会議事堂の建設に、遠邑は貞山堀の改修をはじめ、道路や港湾等の整備、更には現場技術者の育成にも重要な役割を果たした。

宮城県における初期の建設部門は、早川個人の考えや、人脈に頼るところが大きかったと見做される。一方、建設事業を安定的かつ継続的に実施するためには、組織の確立と人材の供給が必要不可欠で、これらは、主として明治中期以降に、地方行財政制度、技術官制度、および教育制





出身地が判明するのは18名で、前述の大窪を除く17名が県外出身であり、地域的な偏りは殆どない。また、初期に技師に昇った人物が、工部省(植田)や大蔵省・内務省(小泉)で技術を修得して来県した者である点は明治初期の特徴と考えられる一方、明治20年代以降には、東京帝大9名、京都帝大2名、熊本高等工業学校1名など、高等教育機関の出身者が大部分を占める。とりわけ、上記した植田や小泉、また特に山添が長期間の技手経験の後に技師へ昇ったのに比して、彼らは最初から技師(技師試補)として採用されており、しかも杉野と川越以外は、1,2年という短い期間で転出している。在任期間の観点から見れば、山添の33年は当時として異例の長さと言える一方、5年未滿で転出している者(寧ろ一般的であった)が過半に達する。

## (2) 技手について

明治19年に13名が任用されて以後、大正9年までの期間に、延べ54名の建設系技手が奉職した。内訳は土木系43名、測量系6名、建築系5名で、人数は時代とともに緩やかに増える。

技師と同様に県外出身にして大蔵省・内務省で技術を修得して来県している人物がいる一方（宮部、松良）、技手には、技師に比べて県内出身者が目立つ（判明する分で22/32）。また、その経路は多様で、内務省で技術を学んで帰県した花見、藩校養賢堂に学び数学に長けた八島、師範学校出身の志村や大沼、早川智寛が興した早川組（土木請負）で技術を学んで県に奉職した山崎（逆に、前掲の植田や松良は、県を退官した後、早川組社員に転籍している。）などに代表される。また、学歴（教育機関による人材供給）の観点から見れば、明治30年前後に工手学校出身者が、大正初期に東北帝大工学専門部出身者が目につくものの、例えば東北帝大工学専門部出身の3名が、いずれも2乃至4年で転職している点は、なかなか興味深い。

## (3) 主要人物について

### ①明治前半期

久米や達邑に加え、宮城県で初めて技師に任用された植田は、工部省を経て来県し、初代の仙台区庁舎（明18）を設計した。また、工部省営繕局時代に久留正道（後に文部省技師）の上席にいた繋がりからと見做されるが、第二高等中学校の建設に際して文部技手を兼任し、現場監督を務めた<sup>1)</sup>。現存する重要文化財・東北学院旧宣教師館の建設にも関係し<sup>2)</sup>、明治23年には建築学会・准会員となるが、技師昇任の直後に宮城県を辞して早川組に転籍し、北海道室蘭での鉄道建設等に従事した。土木分野では、明治8年の着任以来20年以上に渡って県に奉職し土木課長も務めた小泉、工事主任を長く務め、後に仙台市の土木課長になった草刈などがある。

### ②明治中期～後期

山添喜三郎の活躍が出色である。山添については既に多くの経歴が語られているが、とりわけ洋行して学び、帰国後さらに発展させた架構技術を武器に土木・建築の両面で活躍した点は特筆するに値する。土木の面では県内最初の近代隧道と言われる水界隧道の工事監督や澱橋（明25）の工事監督を務め、また明治28年には、第七区土木工事主任も務めた（前掲表1）。一方、建築の面では学校建設への貢献が顕著で、よく知られる登米高等尋常小学校のほか、互いによく似た県第一中学校（明32・明41）と第二中学校（明35）などを設計し、竣工させた。また、明治32年頃から臨時海軍建築部支部の技手を兼務し、舞鶴鎮守府での工場建設等に携わった。

土木分野では、小泉郡司を継いで10年以上に渡って土木課長を務めた杉野茂吉の存在が目立つ。わが国における最初期のRC橋として知られる広瀬橋（明42、図5）は、東京帝大教授・廣井勇の指導の下、杉野が実施設計と主任監督を務め、大窪の現場管理による。

### ③明治末期～大正初期における新潮流

明治末期から大正初期にかけての時期は、特に建築分野において、新たな潮流が見られる点で注目される。また、そうした建築が、山添の技術師昇任と前後して、彼の下で実務を担当することになった次の世代の建築技術者たちによって実現された点は、象徴的であろう。

とりわけ注目される人物として我妻駒之進がいる。我妻が担当した宮城県図書館（明45）は、県営繕として初めての本格的なルネサンス様式の建築で、それまでの県施設と大きく異なる。なお、我妻駒之進については、後に設計事務所を開設していくつかの学校建築を手がけたことや、現存する大和町武道館（旧吉岡小学校講堂）を設計したことが知られている<sup>3)</sup>。

## <引用文献>

- 1) 宮本雅明：明治期における文部省営繕組織の活動体制—高等教育施設の史的研究(2)—、日本建築学会論文報告集、第297号、1980.11
- 2) 野村俊一：デフォレスト館の創建と明治期の履歴、日本建築学会計画系論文集、第707号、2015.1
- 3) 斎藤広通：旧吉岡尋常高等小学校講堂の意匠をめぐる、近代仙台研究会 第3回発表会報告集、同会編、2018.2

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 崎山俊雄、齊藤森太郎	4. 巻 81
2. 論文標題 明治19年～同35年の都道府県庁における技術官の任用状況 - 近代日本における都道府県庁の土木・建築組織と技術者に関する研究 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本建築学会東北支部研究報告集	6. 最初と最後の頁 135-140
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齊藤森太郎、崎山俊雄	4. 巻 81
2. 論文標題 明治19年～同35年に秋田県が任用した土木・建築系技術者の経歴 - 近代日本における都道府県庁の土木・建築組織と技術者に関する研究 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本建築学会東北支部研究報告集	6. 最初と最後の頁 141-144
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 崎山俊雄	4. 巻 80
2. 論文標題 明治前半期における宮城県庁の土木・建築組織と技術者について - 近代日本の地方官庁組織に関する歴史的研究 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本建築学会東北支部研究報告集	6. 最初と最後の頁 109-112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 崎山俊雄	4. 巻 82
2. 論文標題 明治～大正中期における宮城県庁の建設技術者について - 近代都道府県庁の土木・建築系技術者に関する歴史的研究 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本建築学会東北支部研究報告集	6. 最初と最後の頁 97-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒瀬香菜、崎山俊雄	4. 巻 83
2. 論文標題 植田登の経歴とゆう(手偏+邑)翠館・仙台区役所の建築概要	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本建築学会東北支部研究報告集	6. 最初と最後の頁 141-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 齊藤森太郎
2. 発表標題 明治19年～同35年における道府県庁の技術官に関する基礎的検討 - 全国的趨勢の把握と秋田県庁の土木・建築系技術官に対する分析 -
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 崎山俊雄
2. 発表標題 明治後半期～大正初期における宮城県庁の建設技術者
3. 学会等名 近代仙台研究会第4回発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 崎山俊雄
2. 発表標題 宮城県における初期の土木・建築系技術者について - 近代日本の地方営繕組織に関する歴史的研究 -
3. 学会等名 日本建築学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 崎山俊雄
2. 発表標題 宮城県庁における初期の土木・建築組織と技術者について
3. 学会等名 近代仙台研究会 第2回発表会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----